



マルヤス工業株式会社

会社概要・製品紹介



会社概要

創立	1956年8月	
本社所在地	名古屋市昭和区白金2-7-11	
代表者	代表取締役社長 山田泰一郎	
資本金	4億5千万円	
売上高	単独:688億円	連結:1,123億円
従業員	単独:873名 (派遣含む 1,514名)	連結:3,557名 (派遣含む 4,501名)
事業所	岡崎工場・日名工場 (岡崎市) 福受工場・福受みらい工場 (豊田市) ※岡崎工場に隣接 御津工場 (豊川市)	
関連会社数	国内:19社	海外:11社
取り扱い品目	自動車用配管部品・防振用金具部品の製造・販売 住宅/産業用熱交換器の製造・販売 再工業事業	

2022年6月時点




生い立ち

明治28年
1895年

・大工の安藤歳蔵が生糸製造機械の国産化を目的として、現在の岡谷市に個人経営の安藤鉄工所を創立

昭和13年
1938年

・片倉製糸紡績の資本参加を受け機械部門を担当する満留安機械工業として発足
・マルヤスの社名の由来は安藤鉄工所の頭文字「安」を「円」の中におさめた「」からとったものである

昭和22年
1947年

・マルヤス産業(昭和20年 満留安機械工業から社名変更)名古屋営業所が東海ゴム製Vベルトによりトヨタ自動車への納入開始

昭和29年
1954年

・防振ゴムをクラウン用ではじめてトヨタ自動車へ納入開始

昭和31年
1956年

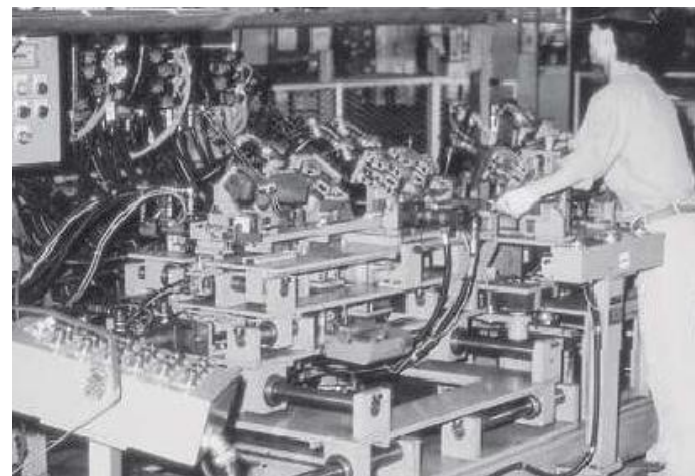
・マルヤス産業(昭和36年 マルヤス機械に社名変更)より自動車部品製造・販売部門として分離独立



沿革

創業～1999年

1956年	マルヤス工業株式会社 創立
1961年	自社技術開発による二重管鋼管生産開始
1965年	岡崎工場 稼動
1976年	長野工場 稼動
1978年	トヨタ品質管理優良賞 受賞
1981年	PM優秀事業場賞 受賞 (本社工場・岡崎工場)
1983年	福受工場 稼動
1984年	CMA(カーティス・マルヤス・アメリカ社) 設立 (カリフォルニア工場)
1986年	御津工場 稼動
1988年	CMA社ケンタッキー工場 稼動
1992年	技術本館 完成
1994年	PM優秀事業場賞 受賞 (御津工場)
1996年	株式会社マルヤス長野 設立 (長野工場分社化)
1997年	マルヤス・インダストリー・タイランド 設立
1999年	TPM優秀賞継続賞 受賞



沿革

2000年～

2001年	ウェビスタ社(フランス) 設立 天津市油管廠と技術援助契約締結
2002年	CMAインディアナ工場 稼働
2004年	天津マルヤス配管システム有限公司 設立 広州マルヤス配管システム有限公司 設立
2006年	CMAテキサス工場 稼働
2007年	WESTAFLEX DEVELOPMENTのマジョリティーを取得
2009年	新事務本館 完成 山田隆雄社長 フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を受章
2013年	PMM PIPE社を設立(POSCO JAPAN・モリ工業との合弁) NEUTECH ADVANCE(マレーシア)と技術援助契約締結
2014年	トヨタ品質管理優秀賞・トヨタ技術開発賞 受賞 (コンパクトカチオン装置の開発)
2016年	日名工場 稼働
2017年	トヨタ技術開発賞 受賞 (加熱デリバリ)
2019年	山田隆雄会長 旭日小綬章を受章
2020年	経産省「2020年版グローバルニッチトップ企業100選」に選定
2021年	トヨタ自動車株式会社より「品質管理優秀賞」の感謝状 ドイツの自動車部品大手のベントラー社と協業開始
2022年	福受みらい工場 稼働



主な製品

自動車用部品



ユニット部品

EGRクーラー



高圧・低圧・加熱デリバリパイプ



樹脂製ウォーターパイプ



モータークーリングパイプ



EGRパイプ



オイルデリバリパイプ



フューエルクーラー



オイルクーラーチューブ



産業用製品

盤用熱交換器



家庭用燃料電池
廃熱回収用熱交換器



ブラケット部品

インバーターカバー



インバーター
ブラケット



エンジンマウント
ブラケット



チューブ部品

樹脂パージ配管



ブレーキ配管



集合配管



太陽熱給湯システム



ReTerra

再生可能エネルギーのひとつである「太陽熱」を使って温水を作るシステム。

集熱器で太陽熱を集め、貯湯ユニットに温水を貯める。集熱状況はリモコンで確認可能。

太陽光発電のエネルギー変換効率が10~20%程度であるのに対し、太陽熱給湯システムは約50%で、太陽エネルギーをより効率よく利用できる。

家庭の給湯コストの削減だけでなく、カーボンニュートラルにも貢献。

耐久性にも優れ、災害時には貯蓄ユニットに蓄えられたお湯を使用することができ、防災の観点からも注目されている。

「負担を強くない再エネ利用」をコンセプトに開発を進めており、現時点で2つのマンションにモニターとして設置、今後も随時展開予定。

太陽熱給湯システム

システムの構成要素

集熱器

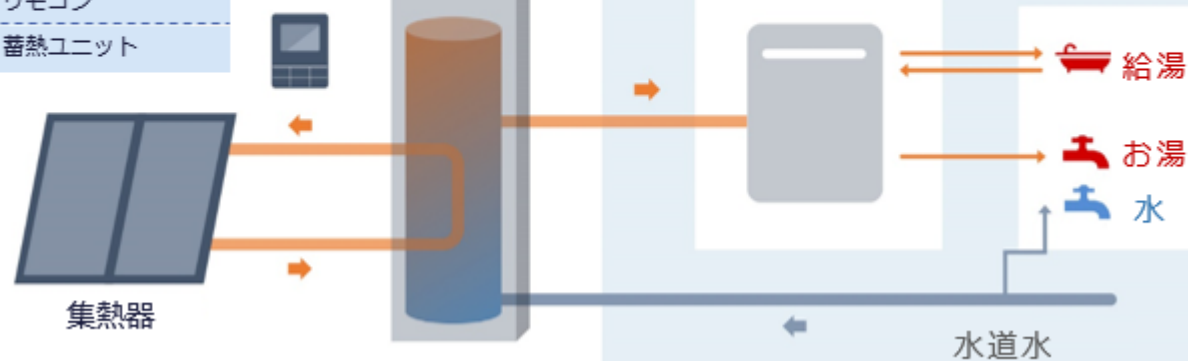
リモコン

蓄熱ユニット

蓄熱ユニット

リモコン

ガス給湯器



集熱器



リモコン



蓄熱ユニット

新製品開発

プログラマブル水耕栽培装置

小型マイコンを内蔵し、LED、ファン、ポンプなどのデバイスの制御と温度、湿度のモニタリングに加え植物の生育状態を予め設定した頻度で撮影することで生育状態の連続観察を可能とした装置。

小学校でのプログラミング教育に使われることの多いスクラッチ(ビジュアル型プログラミング言語)での制御も可能で、画面の中だけにとどまらないIoTの要素を併せ持つ教育ツールとしての用途、さらには家庭や各種店舗でのディスプレイ+ミニ菜園の用途も兼ね備えている。

現在、飲食店や小学校等にてモニター評価を実施中。

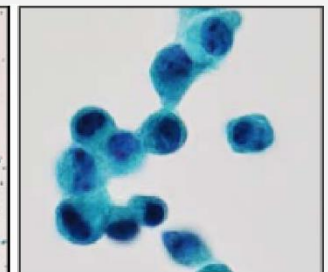


血液中循環がん細胞(CTC)検出装置

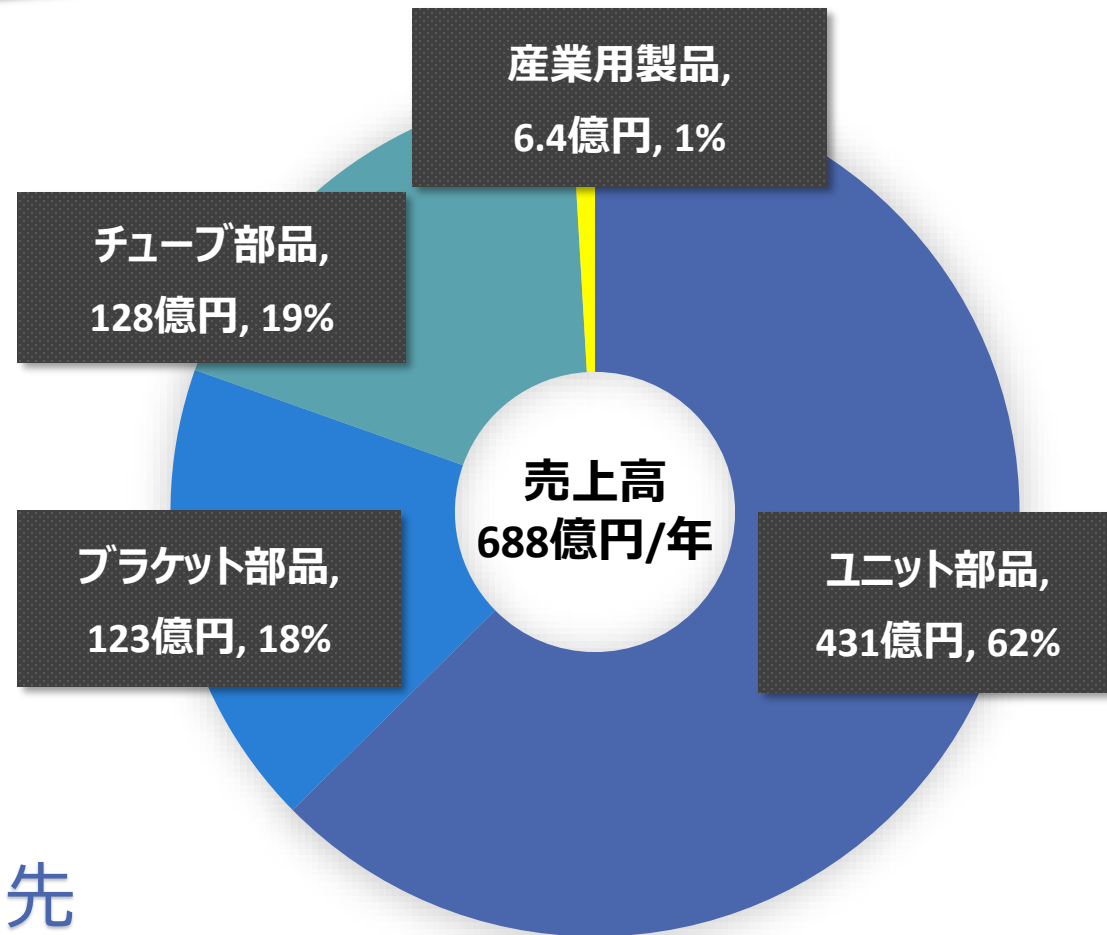
血液中に循環する数億個もの細胞の中から、ガン細胞をフィルタリング・抽出するシステム。

自動車部品開発で培われた流体制御技術は医療分野でも注目されている。がん細胞は非常に繊細なため、スライドガラスへの自動移し替え装置も開発し、DNAなどの分析が行えるように2020年から国立名古屋大学での研究に活用。

今後、多くの医療機関や大学病院などにおける臨床試験で活用され、学会でその有効性が認められれば、大きな社会貢献になると期待。



売上構成



主要取引先

トヨタ自動車(株)、ダイハツ工業(株)、日野自動車(株)、本田技研工業(株)、日産自動車(株)、(株)スバル、ヤマハ発動機(株)、マツダ(株)、スズキ(株)、三菱自動車工業(株) 他

技術・製品の歴史

1940～1980年代

1940-50年代 創業期

「和」と防振ゴムで創業

1960-70年代 台頭期

第2の柱 チューブで世界一を目指す

1980年代 挑戦期

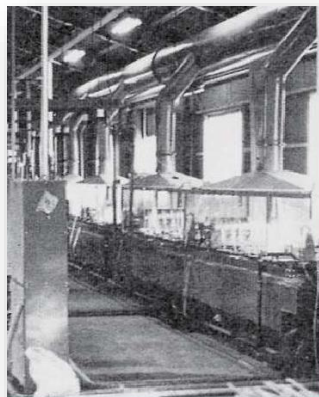
電子技術への挑戦



- 1968 順送プレス技術
- 1965 フェルト制振・防音材
- 1962 抵抗溶接技術
- 1954 エンジンマウント納入開始

- トランスファープレス技術
- 冷鍛加工技術
- 排ガス対応ロー付製品
- 一重巻銅管
- 1973 樹脂チューブ

- レーザー加工技術
- 真空ロー付技術
- フッ素コーティング技術
- 燃料噴射管
- ステンレス製ロー付技術



- 1961 二重巻銅管(自社技術) 生産開始
- 1967 $\phi 4.76$ 二重巻銅管の造管開始
- 1968 チューブ外面高速めっき技術

- 1983 マツダ集中曲げ自動ライン稼働
- SAWフィルター納入開始
- 真空蒸着技術



技術・製品の歴史

1990年代～

1990年代 変革期

機能性と配管技術の融合
デリバリで深化

2000年代 飛躍期

新たなる熱交換分野に飛躍

2010年代～ 興隆期

未来創造



- 1997 板金製デリバリパイプ
- 1997 小型SS通信機
- 1996 パルセーションダンパー
- 1995 狭帯域フィルター納入開始
- 1994 樹脂被覆技術
- 1993 SS通信機納入

- 2005 二重管コンパクト一貫縦型フッ素ライン
- FCHV用気水分離機
- 2004 燃料クーラー
- 軽量化技術
- 2003 エアーバック配管
- 2000 ACMエンジンマウント

- 2021 アルミ製オイルクーラーチューブ
- 2021 インバーターカバー
- 2019 エネファーム用排熱回収器
- 2018 アルミ製排熱回収ウォーターパイプ
- 2018 樹脂製パージ配管
- 2016 高圧フューエルデリバリ
- 2016 樹脂ウォーターパイプ
- 2015 インバーターブラケット
- 2014 マルヤスオリジナル低コストろう材
- 2011 コンパクト一重管



- 1997 樹脂薄肉被覆技術
- 1997 二重巻銅管連続加工技術
- 1998 EGRクーラー
- 1998 スパッタリング技術
- 耐燃料透過性樹脂チューブ
- PCチューブ樹脂被覆技術

- 2006 脈動吸収デリバリ
- 2007 GタイプEGRクーラー
- 2007 クラッチハウジング
- 2007 コンパクトカチオン
- 2008 壁面吸収デリバリ
- 2009 フェライト系SUSロー付技術



国内ネットワーク

- マルヤス工業グループ
- オンサイト
- 順建生産



海外生産拠点

アメリカ



カーティス・マルヤス・アメリカ (CMA)

- ・設立 : 1984年4月
- ・売上高 : 169億円 (2022年6月期)
- ・人員 : 670名 (内、4名日本人常駐)
- ・ISO14001 (2002年取得)

《主な生産品目》

- ・シャシー&チューブミル部門
フューエル集合配管、ブレーキASSY
- ・パワートレイン部門
ウォーターバイパス、エアー/オイルパイプ、パワーステアリング、フルードクーラー、フューエルデリバリ

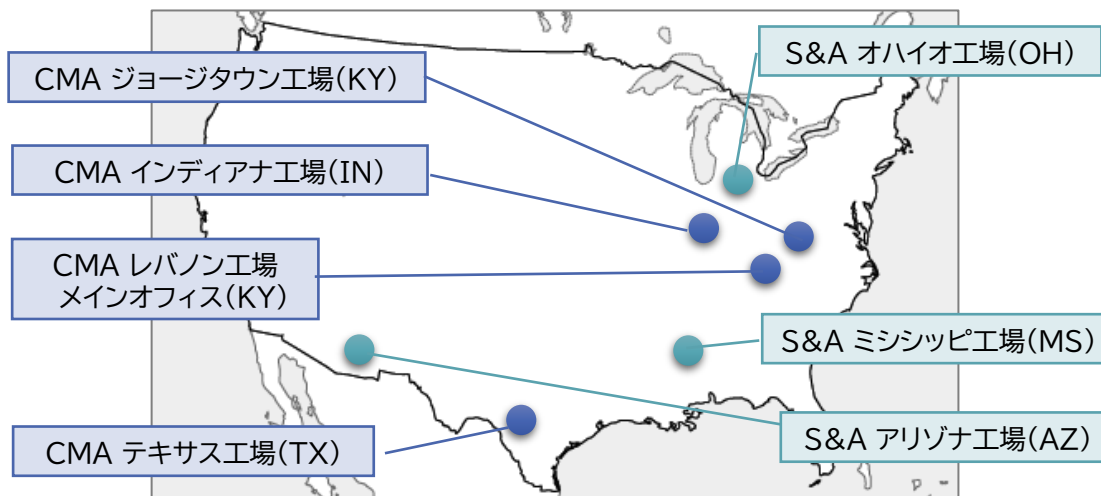
《主な設備》

- ・一重巻/二重巻 造管ライン
- ・ブレーキチューブ&ナイロンコートライン
- ・自動組付&自動端末加工ライン
- ・亜鉛ニッケル&スズ亜鉛メッキライン
- ・真空炉、連続炉
- ・樹脂部品射出成形機
- ・ロボット&パワーベンダー
- ・無電解ニッケル・リン メッキライン



《今後の展開》

- ・樹脂系配管部品の拡販
- ・エンジン用配管部品の拡販



セキソー&アクロン インダストリーズ (S&A)

- ・設立 : 2010年2月
- ・売上高 : 33億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 230名

《主な生産品目》

空調ダクト、ポラスダクト、アスファルトシート、ダッシュサイレンサー

《主な設備》

- ・ブロー成形機
- ・ポラスプレス成形機
- ・制振材製造ライン
- ・チューブ端末加工機
- ・ポラス成管ライン

《今後の展開》

吸気系部品の現調化と拡販

海外生産拠点

欧州

フランス



ウェビスタ、ヴェコスタ
(ルーペ市)

ウェビスタ (WEVISTA)

- ・設立 : 2001年7月
- ・売上高 : 30億円 (2022年3月期)
- ・人員 : 103名 (内2名日本人常駐)

《主な生產品目》

- ・金属パイプ加工
EGRクーラー、ターボインレットパイプ、ウォーターパイプ

《今後の展開》

- ・日系得意先へのユニット部品拡販
- ・欧州メーカーへの拡販

ヴェコスタ (WECOSTA)

- ・設立 : 2001年7月
- ・売上高 : 16億円 (2022年3月期)
- ・人員 : 37名

《主な生產品目》

- ・樹脂 吸気系ダクト

《今後の展開》

- ・高性能吸音材開発による新規プロジェクトの拡販



トルコ



SIT
(ゲブゼ市)

セキソー・インダストリーズ・ターキー (SIT)

- ・設立 : 2003年8月
- ・売上高 : 6億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 120名 (内1名日本人常駐)

《主な生產品目》

- 吸気系ダクト、空調ダクト

《今後の展開》

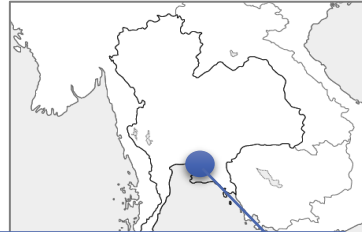
- ・吸気系ダクトの他社拡販



海外生産拠点

アセアン

タイ



MIT
(イースタンシーボード工業団地 ラヨン県)

マルヤス・インダストリーズ・タイランド (MIT)

- ・設立 : 1997年1月
- ・売上高 : 89億円 (2022年9月期)
- ・人員 : 801名 (内4名日本人常駐)

《主な生產品目》

ブレーキ&フューエルチューブ、フューエル・オイル・エアパイプ、エンジンマウントブラケット、ポーラスダクト、フューエルデリバリ

《主な設備》

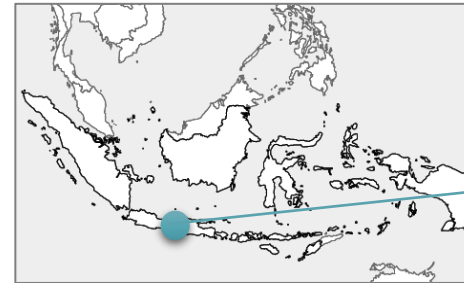
- ・一重巻鋼管
 - ・二重巻鋼管造管
 - ・Ny/PCコート
 - ・溶接機
 - ・半自動ロー付け機
 - ・連続炉
- ・プレス機



《今後の展開》

- ・ユニット部品拡販

インドネシア



SII
(MM2100工業団地 西ジャワ州)

セキソー・インダストリーズ・インドネシア (SII)

- ・設立 : 1997年11月
- ・売上高 : 15億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 187名

《主な生產品目》

空調ダクト、ポーラスダクト、アスファルトシート、ブレーキ&フューエルチューブ

《主な設備》

- ・ブロー成形機(2D、3D)
- ・制振材製造ライン
- ・チューブ端末加工機

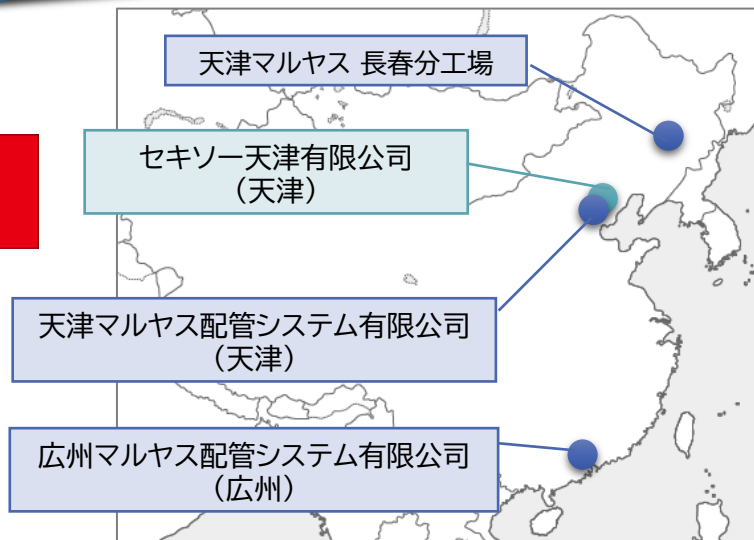


《今後の展開》

- ・成形ポーラス部品

海外生産拠点

中国



セキソー天津有限公司

- ・設立 : 2008年5月
- ・売上高 : 9億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 45名 (内1名日本人常駐)



《主な生産品目》

吸気系ダクト、エンジンアンダーカバー、制振材

《主な設備》

・ポラス製管ライン ・ブロー成形機 ・制振材製造ライン

《今後の展開》

・成形ポラス部品 ・鉄板拘束制振材

広州マルヤス配管システム有限公司

- ・設立 : 2004年12月
- ・売上高 : 61億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 195名 (内1名日本人常駐)

《主な生産品目》

ブレーキ&フューエルチューブ、ウォーター・オイル・エア・EGRパイプ

《主な設備》

・PCコート ・専用曲げ機

《今後の展開》

・エンジン廻りの配管部品



天津マルヤス配管システム有限公司

- ・設立 : 2004年1月
- ・売上高 : 55億円 (2021年12月期)
- ・人員 : 272名 (内4名日本人常駐)

《主な生産品目》

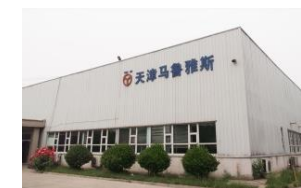
ブレーキ&フューエルチューブ、ウォーター・オイル・エア・EGRパイプ、エンジンマウントブラケット

《主な設備》

・一重巻鋼管 ・二重巻鋼管の造管 ・Ny・PC
・真空炉 ・レーザー溶接機 ・200T順送・単発プレス機

《今後の展開》

・エンジン廻りの配管部品 ・EGRクーラー等の拡販 ・中国国内カーメーカーへの拡販



SDGs

環境にやさしい会社を目指して

カーボンニュートラルに寄与する製品の開発や新技術の導入、
環境に配慮したものづくり、廃棄物の削減など多方面で積極的な取り組みを行っています。



EGRクーラー

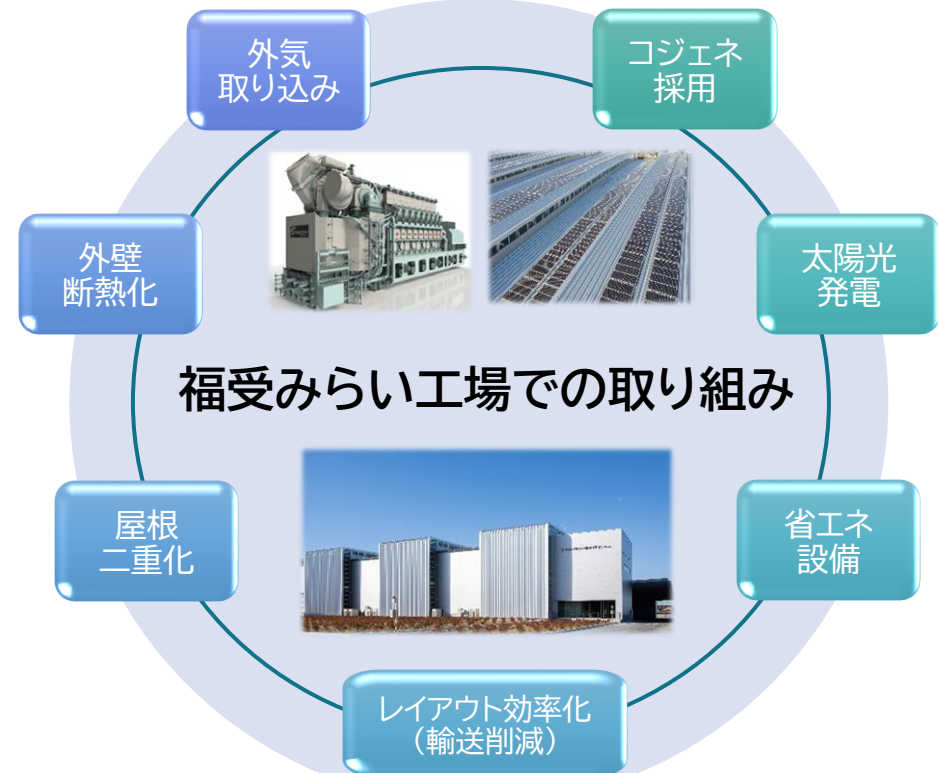
環境にやさしい製品開発



EV用製品



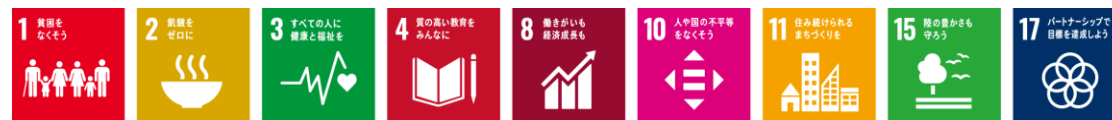
熱交換器



SDGs

人にやさしい会社を目指して

「技術とチームワークで世界に笑顔を」の経営理念の下、マルヤス工業は従業員が安全・安心に働ける職場づくり、地域社会への貢献をはじめとして、企業活動を通じてすべての人が幸せになれるような未来社会の実現に貢献していきます。



矢作川・家下川ボランティア



御津地域清掃



献血への協力



サッカー教室



カーボンニュートラル

マルヤス工業は製品製造の工程や運搬工程を含めた企業活動全般でのCO₂削減に積極的に取り組みます。製造現場における省エネルギー化の推進はもちろん、グループ企業全体でのCO₂削減やグローバル生産体制の再構築、物流自体の削減など、カーボンニュートラルに向けた取り組みを進めて参ります。

CO₂排出量ゼロを目指す5つのミッション



マルヤスのカーボンニュートラル目標値

